

最新版

迷ったときの

名医は
名医を知る

医者選び

関西

医療評価ガイド取材班
<http://www.e-ishaerabi.com>



全て
面接取材!

医者が病気になったときに
自らかかりたい名医を推薦!

実力医師375人

手術数だけでは分からない名医を公開!

角川SSコミュニケーションズ

<http://www.e-ishaerabi.com>

嶋田 一郎 院長



嶋田一郎院長

大阪府堺市南区桃山台2-3-4ツインビル桃山
2階
TEL:072-290-0777
最寄りの駅／泉北高速鉄道榎・美木多駅、
徒歩5分
<http://www.shimada-cl.or.jp>
<スタッフ>嶋田文子副院長

Profile

しまだ・いちろう。1960年大阪府生まれ。84年大阪市立大学医学部卒。同大学病院第二内科、長野県佐久市立国保浅間総合病院内科、国立泉北病院神経内科を経て96年開院。日本内科学会認定内科専門医（内科専門医）、日本神経学会認定医（神経内科専門医）など。

実績・成績 2006年外来患者のべ約18000人（うち神経内科関係 約3000人）。

特色 神経難病から脳卒中慢性期まで、幅広く診療

同院は医師2人の二診制をとっており、嶋田院長は、国立泉北病院神経内科での10年の診療経験を生かし、主に神経内科関連の患者を診療。対象とする疾患は、パーキンソン病などの神経・筋疾患、片頭痛、脳卒中の慢性期など、幅広い。通院が困難な患者には、訪問診療を実施。大きな病院ではできないことが多い、患者の生活まで見据えた診療に力を注いでいる。

治療 ケア・マネージャーらと連携し、在宅診療を実施

嶋田院長が診療している神経内科関連の患者は、大きく神経・筋疾患の患者と、脳卒中の慢性期の患者に分かれる。神経・筋疾患の患者は、病院で診断がついた患者のほか、ほかの開業医から紹介されてくる患者もいる。そのような患者に対し、同院長は時間をかけていねいに診療する。例えばパーキンソン病の治療は、ドパミン補充薬やドパミン補助薬を投与する薬物療法が中心になるが、使用する薬の種類と投与量が肝心だ。同院長は、一人ひとりの患者に合わせて処方し、症状の緩和を図る。

脳卒中の慢性期の患者は、再発を防ぐ二次予防が重要だ。同院長は、血液の流れを改善する抗血小板薬を投与する一方、脳卒中の原因になる高血圧や高脂血症などをきちんとコントロールする。血圧は低すぎてもいけない。脳に十分な血液が流れず、ふらついたり脳梗塞となったりするからだ。同院長は、動脈硬化が進んでい

る患者は、血圧は少し高めでもいいと考える。

通院が困難な患者には、訪問診療や同院看護師によるサポートを実施している。神経・筋疾患が進行した患者や、脳卒中の後遺症で麻痺が残った患者などである。これらの患者は介護保険が導入できるケースが多いため、地域のケア・マネージャーや保健師につなぎ、その人らしい生活が送られるように、患者の生活全体をコーディネートしている。

同院長は、地域のケア・マネージャーの会の顧問を務めているほか、「堺市難病支援ネットワーク」とも連携があるため、いざというときはいつでもケア・マネージャーらの協力を得ることができる。基幹病院神経内科の医師とも連携を図っており、急性期の治療や検査が必要なときなどは、いつでも紹介できる体制も整えている。現在、訪問診療をしている患者は約50人。その3分の2が、神経内科関係の患者である。

嶋田院長からのアドバイス

外来の診察は忙しいことが多いので、これまでの病状の経過や治療経過をメモして当日医師に渡していただくと、効率よく的確な診療ができます。また、「こんな症状は関係ないだろう」と思うようなことも、医師に伝えるようにしてください。細かなことでも遠慮なく話せる人間関係を作ることが大切です。

外来診療日 月・火・木・金曜（9:00～12:00、16:30～19:00）水・土曜（9:00～12:00）神経・筋疾患は電話で予約が必要。紹介状持参が望ましい。